

美野里ハイタウン通信 12

2004年1月16日



あれ？お引越しかた？と
思ったら、人がいなくなった部
屋の解体でした。作業員の方
にお話をうかがいました。



住んでいた人の思い 出や苦労がある...

Aさんは昭和22年生まれ。
美野里ハイタウンの作業をす
る時の思いを語ってくれました。



私らが壊すのは、
いとも簡単だよ。
簡単だけどね、そ
こには住んでいた
人の苦労や思い出
もんがある。だからはがゆい
んですよ。家財道具にも、使
っていた人の思い出があるでしょ。
作業の前に、私は塩で清めて、
それから家具なんかを運び出す
んです。作業はなるべく短時間
で終わらせるようにしているんだ。
周りには人が住んでるんだからね。

子どもってというのは、 育ったところを見たいもの なんだよ！

ここには子どももいるで
しょ。かわいそうだね。私
は自分が育った家が壊さ
れた経験があるんです。
親父が仕事で失敗してね...
あの時はくやしかった。
すんごくくやしかったよ。
だから気持ちかわかる気が
するんだよね... 取材日
04.12.26

アルバムや写真は捨てるの
ツライっす... 28才の
Bさん。これまでの作業で、
アルバムや写真が出てきた
ことがある。ホーン、とは捨
てられないっすよ。 取材日
04.12.26